

「大阪府内における水素ステーション整備計画」の改訂（見直し）について

1 改訂の契機

- (1)「ロードマップ改訂版」により 2020 及び 2025 年度の定量的な全国整備目標数が明示された。
- (2) 大阪の現行 2025 年度目標は 3 つのパターンにより推計し、9 箇所・31 箇所・80 箇所という大きく異なる 3 つのパターンを設定している。
- (3) 大阪の現行 2025 年度目標は「あくまで計画策定時の推計値であり（略）必要に応じ見直す」と下線付きで強調されており、目標の見直しを予定している。

2 改訂の考え方

大阪の 2025 年度目標の明確化を主眼とした時点修正

3 改訂の主なポイント

I 計画策定の目的

- ⇒ 「ロードマップ改訂版」を契機に計画を改訂することを記載
- ⇒ 整備計画は、今後必要に応じて見直すことを記載

IV-2 2025 年度までの整備目標数

- ⇒ 大阪府内の整備目標数を見直し

| 現行計画 | 改訂案 |
|--|------------------------------|
| パターン1：80 箇所 パターン2：9 箇所 パターン3：31 箇所 | 28 箇所 (2020 年度は 14 箇所を目安) |

V 水素ステーション整備・FCV普及を促進するための取組み

- ⇒ 子供に対する普及啓発活動の明確化
- ⇒ 「H₂Osaka ビジョン」(2016 年 3 月策定) や FC バスなどの施策との連携の明確化

4 改訂案（主要な箇所）

| 箇所 | 要旨 | 改訂案 |
|-----------------------|--------------------|--|
| I 計画策定の目的 (改訂案 p3) | 「エネルギー基本計画」の引用の直接化 | 本 2014 年 4 月に閣議決定された新たなエネルギー基本計画では、水素について「 <u>将来の二次エネルギーの</u> として「水素」を中心的な役割を担うことが期待される」とも位置付けるとともに、水素を <u>日常生活や産業活動で利活用する社会、いわゆる「水素社会」を</u> の実現していくためには、 <u>に向けて、「水素の製造から貯蔵・輸送、そして利用に至いたるサプライチェーン全体を俯瞰し、</u> 「実現可能性の高い技術から社会に実装していくため、戦略的に制度やインフラの整備を進め |

| 箇所 | 要旨 | 改訂案 |
|--|--|---|
| | <p data-bbox="316 931 552 1003">今回改訂の趣旨の記載</p> <p data-bbox="316 1290 552 1361">整備計画の将来見直しの旨の記載</p> | <p data-bbox="584 215 1430 405">ていく」ことが重要とされた。この計画に基づきを踏まえ、経済産業省が本同年 6 月に策定された「水素・燃料電池戦略ロードマップ」では、2040 年頃までに水素社会の実現を目指すこととし、その第一段階としてエネファームや燃料電池自動車（以下「FCV」という。）の活用を大きく広げていくことを目標に掲げている。</p> <p data-bbox="584 416 1430 562">特に FCV については、2014 同年 12 月に国内市場への投入が開始されており、その普及を図るためには、FCV に水素を供給する水素ステーション等の水素供給インフラ（以下「水素インフラ」という。）が必要である。</p> <p data-bbox="584 573 1430 763">2011 年 1 月、自動車メーカーと水素供給事業者 13 社が発表した「燃料電池自動車の国内市場導入と水素供給インフラ整備に関する共同声明」を受けて、2013 年度からは一国において水素インフラの整備を促進するための「水素供給設備整備事業費補助制度金」が創設され、商用水素ステーションの整備が開始されている。</p> <p data-bbox="584 775 1430 920">そこで、2015 年 1 月におおさか FCV 推進会議（当時*）として、水素インフラ整備事業者が当該補助金を活用する上で必要となる「大阪府内における水素ステーション整備計画」を策定し、整備目標数を設定することとした。</p> <p data-bbox="584 931 1430 1077">その後、様々な取組が進展している状況を踏まえて 2016 年 3 月に「水素・燃料電池戦略ロードマップ」が改訂され、新たに全国の FCV 普及台数目標及び水素ステーションの整備目標数が明示されたことから、大阪における整備目標数について見直すこととしたものである。</p> <p data-bbox="584 1088 1430 1279">なお、策定にあたっては、大阪府の地勢や道路の整備状況、各種道路関係調査等の基礎的なデータに基づき、水素インフラの適正配置等に関する検討を行った「大阪府における水素ステーション整備に関する調査報告書」（2012～2013 年度に実施）及び自動車メーカーからのデータを活用したところである。</p> <p data-bbox="584 1290 1430 1402">また、今後の整備・普及状況を見ながら、時々々の社会情勢、規制見直しや技術開発の進捗状況等を踏まえ、この計画を必要に応じて見直すこととする。</p> <p data-bbox="616 1413 1430 1525">* 「おおさか FCV 推進会議」は、FCV 及び EV についての取組みを一体的に推進していくため 2016 年 1 月をもって「大阪次世代自動車普及推進協議会」に再編した。</p> |
| <p data-bbox="153 1574 284 1720">I V - 2 2025 年度までの整備目標数 (改訂案 p30)</p> | <p data-bbox="316 1615 552 1682">2025 年度目標の明確化</p> <p data-bbox="316 1738 552 2007">< 現行計画 > パターン 1 : 80 箇所 パターン 2 : 9 箇所 パターン 3 : 31 箇所 ↓ < 改訂案 > 28 箇所</p> | <p data-bbox="600 1574 935 1608">(1) 2025 年度目標について</p> <p data-bbox="616 1619 1430 1843">本協議会においても諸々の検討を行ったうえで、「水素・燃料電池戦略ロードマップ」(2016 年 3 月改訂) (以下「ロードマップ改訂版」) の目標設定の考え方である「2020 年度までに 2015 年度末時点の水素ステーションを倍増 (略) させ、2025 年度までにさらに倍増 (略) させる」に沿うことにより、全国に対する大阪府域の割合を維持することとする。</p> <p data-bbox="616 1854 1430 1921">すなわち 2025 年度には、2015 年度末の大阪府域 7 箇所の 4 倍増の 28 箇所を目標とする。</p> <p data-bbox="616 1977 1430 2045">2025 年度の大阪府域の FCV 普及台数を推計し 1 ステーションあたりの FCV 台数からステーション箇所数を推計すると、次のとおりこ</p> |

| 箇所 | 要旨 | 改訂案 |
|--------------------------------|---------------|--|
| | 2020 年度目安の設定 | <p><u>の目標値 28 箇所</u>にほぼ合致する。</p> <p><u>まず、2011～15 年度の全国新車販売台数（平均 437 万台）及び自動車保有台数の大阪府域割合（平均 4.6%）から将来の大阪府域の新車販売台数を 20.1 万台／年と想定する。</u></p> <p><u>次に、このうちの FCV の割合については、その普及が、なお暫くは先行して水素ステーションの整備されつつある四大都市圏を中心に進むと考えられることから、「自動車産業戦略 2014」（経済産業省）の FCV 普及目標（新車販売台数に占める割合）である 2030 年「～3%」の上限をもとに設定した。すなわち、将来の新車販売に占める FCV 割合を後年ほど増加する 2020 年 0.6%・2025 年 1.8%・2030 年 3.0%と設定した。これにより大阪府域における 2025 年度 FCV 販売累計台数は 1.7 万台と想定される。</u></p> <p><u>そして、「ロードマップ改訂版」の 2025 年度目標から算定した 1 ステーションあたり FCV625 台（=200,000 台÷320 箇所）によりステーション数を算出すると、1.7 万台÷625 台/ST=27.2 箇所となる。</u></p> <p>（1）大阪府内における FCV 普及台数の見込み （以下略）</p> <p>（2）普及台数推計 （以下略）</p> <p>（3）府内エリア別の水素ステーション整備目標数</p> <p>前項で推計した、2025 年における大阪府内の水素ステーションの整備目標数は、パターン 1 で 80 箇所、パターン 2 で 9 箇所、パターン 3 で 31 箇所となる。</p> <p>次に、大阪府全域を地理的特性から A～H の 8 エリアに分割。各エリア別の保有車両数に基づき、府域で占める割合を算出し、それぞれのエリア別の整備目標数を求める。</p> <p>上表のうち、パターン 3 のエリア別整備目標数を地図上にプロットしたものを 2025 年度における水素ステーションの配置イメージとして次ページに示す。</p> <p>なお、2025 年度の目標数値はあくまでも計画策定時の推計値であり、実際の普及状況を見ながら必要に応じて見直すこととする。</p> <p><u>（2）2020 年度について</u></p> <p><u>2025 年度まで約 10 年という期間があることから、その中間の通過点のマイルストーンとして、2025 年度目標の 2 分の 1 の 14 箇所を 2020 年度の目安とする。</u></p> |
| V 水素ステーション整備・FCV 普及を促進するための取組み | 子供に対する取組みの明確化 | <p>V-1 水素ステーション整備促進に向けた取組み</p> <p>②水素に関する社会的受容性を高めるための普及啓発・理解増進活動</p> <p>○住民・事業者向けの水素に関する講演会を開催。最新情報を提供</p> <p>○次世代を担う児童・生徒等が水素に親しみ、理解を進める普及啓発</p> <p>○<u>市町村関係行政職員向けの水素ステーション設置に関する啓発活動</u></p> |

| 箇所 | 要旨 | 改訂案 |
|--------------|--------------------|--|
| (改訂案 p32) | | ○実際の水素ステーションを活用した見学会・セミナーの開催 |
| | 同上 | V-2 FCV普及促進に向けた取組み ③普及啓発活動 ○(V-1とともに) <u>講演会・セミナー等による住民・事業者向けのFCVに関する講演会を開催。最新情報の提供</u> ○ <u>次世代を担う児童・生徒等がFCVに親しみ、理解を進める普及啓発</u> ○各種イベント等を活用したFCVの展示・PR |
| | ステーション関連 施策の明確化 | V-3 その他 <u>地域の水素エネルギーの利活用の拡大・関連産業振興の機運を醸成するため水素・燃料電池関連分野における今後の取組の方向性を示す「H₂Osaakaビジョン」(2016年3月策定)による関西国際空港における、「KIX水素グリッド」及び「KIXスマート愛ランド構想」の取組みとりわけFCバスやFCバイクの開発・普及状況を踏まえたそれらの導入やFCバス向け水素ステーション整備の検討などとの連携強化</u> |